与論町立与論小学校

与論小だより

令和4年4月18日

校訓：至　誠【 真心をもって人に尽くす 真心をもって事にあたる 】

ブログはこちらから

社会に開かれた教育課程を目指して

校長　　岩元　輝美

「ピッカピカの１年生」１９人が与論小に入学しました。どの子の瞳も輝いていて、これからの学校生活に胸を膨らませていることがよく伝わってきます。また、２年生から６年生もそれぞれ進級し、気持ちも新たに「よし頑張るぞ」という表情になっています。令和４年度、与論小学校は、８学級、児童１０２人、教職員１７人でスタートしました。本年度も学校教育への変わらぬ御理解と御支援をよろしくお願いします。

さて、本校では、令和４年度の教育課程（授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画）を編成するにあたって、令和３年度後半から学校教育目標の見直し作業を行いました。その際、令和の時代に、守るべきは守り変えるべきは変えるスタンスで、**①与論小らしいものであること②指導要領等に書かれた文言の繰り返しでないこと③教職員はもちろん保護者や子供たちでも言えるような覚えやすいものであること④すべての教育活動において意識されるものであること**などを踏まえて、創造的に発展する与論小学校を目指して、本年度から**学校教育目標を「校訓『至誠』を胸に、未来に挑む子供の育成」に変更**しました。

ご存知のとおり「至誠」とは、これ以上ないほどに誠実であること、真心を意味する言葉です。中国の古典「孟子」の有名な言葉に「至誠而不動者未之有也（至誠にして動からざる者は未だこれ有らざるなり）」があります。真心をもって接すれば、どんな人でも動かせる力があるということを意味しています。この言葉は、幕末の志士吉田松陰が座右の銘としていたことでも知られています。あの徳川幕府を終わらせて明治という新しい近代国家を造り上げた原動力となった考えでもあります。また、与論の古謡に「打（ウ）チジャショリ　ジャショリ　　誠（マクトゥ）　打チジャショリ　誠打チジャシバ　何（ヌ）恥カチュンガ」と歌われています。そして、与論小学校では、校訓として受け継がれてきたのです。つまり、「至誠」を不偏不朽の教育理想とし、生涯教育の根本と考えてきたのです。よって、校訓「至誠」を胸に刻みながら、これからも学校教育を行っていきたいと考え、学校教育目標の前段に据えました。

一方、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきていることは、これまでも指摘されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっています。また、今後さらに加速度的に社会が変化していくことは必然です。今後いかなる時代が来ようとも子供たちはその中で生きていかねばなりません。そのために、今、学校教育には、子供たち一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、様々な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質能力を育成することが求められています。それらの資質能力をもって、子供たちがそれぞれの未来に挑んでいってほしいと願い、学校教育目標の後段に「未来に挑む」を据えました。

学校教育目標ということから、文末を「子供の育成」としていますが、「校訓『至誠』を胸に、未来に挑む」というフレーズは、実は、学校職員にも、保護者の皆様にも、あるいは与論小への愛着をもっていただいている全ての皆様にも、大切にしていってほしいと考えています。

新しい学習指導要領においてカリキュラムマネジメントの推進がこれまで以上に求められています。それは、教育活動の日常的な改善を図ることであり、学校教育目標を達成していくことです。そのことは、学校教育目標の目指すものを教職員が共有し、日常の教育実践の中で意識することのほかありません。さらに、家庭や地域とも共有していくことが求められています。新しい学校教育目標の下、社会に開かれた教育課程にしていきたいと考えます。

なお、学校教育目標に基づくグランドデザインについては、ＰＴＡ総会の際にお示しします。また、学校ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

ホームページはこちらから